

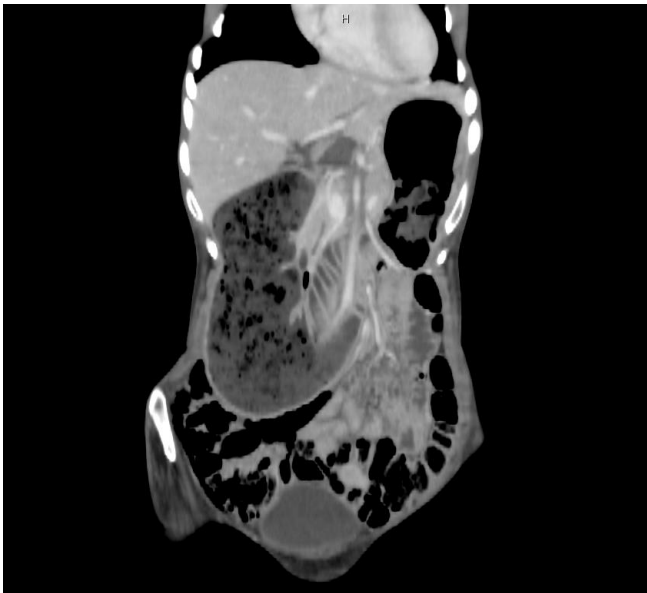
問題 1

33 歳女性。食後の腹痛、嘔吐を主訴に来院した。2 ヶ月前に親類が亡くなったのを契機に食事が低下、体重減少も来し、ここ数日は食事後に嘔気、腹痛を来すようになった。既往歴に特記事項なし。身長 143cm 体重 31.2kg 体温 36.2℃ 血圧 92/50mmHg 貧血/黄疸なし、腹部は膨満しており、右下腹部に圧痛がある。

血液検査所見：赤血球 419 万/ μ l、Hb 12.6g/dl、白血球 3980/ μ l、血小板 21.9 万/ μ l
総蛋白 7.0g/dl、アルブミン 4.6g/dl、AST 29IU/L、ALT 21IU/L、ALP 104IU/L、 γ -GTP 14U/L、総ビリルビン 0.6mg/dl、BUN10mg/dl、Cre 0.08mg/dl、Na 141mEq/L、K 4.0mEq/L、Cl 97mEq/L、CRP 0.13mg/dl

腹部造影 CT (A) と X 線写真 (B) を別に示す。

(A)



(B)



(1)この疾患で解剖学的に問題となるのはどこか

- 1 胃幽門部
- 2 十二指腸球部
- 3 十二指腸下行脚
- 4 十二指腸水平脚
- 5 空腸

(2)治療として適切でないものを2つ選べ

- 1 十二指腸空腸バイパス術
- 2 体位変換
- 3 α 刺激薬投与
- 4 栄養指導
- 5 利尿剤投与

(答)

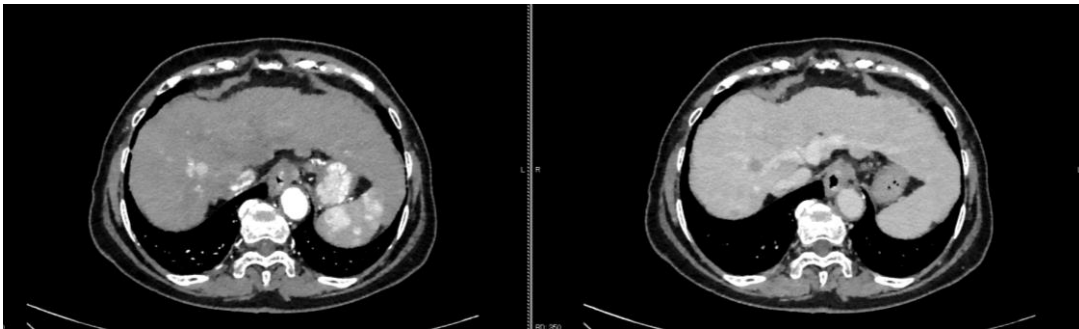
(1)4, (2)3, 5

問題 2

69歳の男性。人間ドックの腹部超音波検査で異常を指摘されたため来院した。幼少期に交通事故にあり、輸血歴がある。また65歳時に大腸癌で手術歴がある。飲酒歴はない。身長164cm 体重68kg 体温35.4℃ 血圧146/77mmHg 脈拍76/分 肝性脳症なし。腹部は軽度膨隆、軟で肝臓・脾臓を触知しない。

血液検査所見:赤血球 544万/ μ l、Hb 15.7g/dl、白血球 5580/ μ l、血小板 11.0万/ μ l、PT %60、総蛋白 8.1g/dl、アルブミン 3.2g/dl、AST 28 IU/L、ALT 17 IU/L、ALP 202 IU/L、LD 207IU/L、 γ -GTP 23IU/L、総ビリルビン 2.1mg/dl、BUN 20mg/dl、Cre 0.09mg/dl、Na 139mEq/L、K 4.4mEq/L、Cl 104mEq/L、CRP 0.09mg/dl、AFP 7ng/ml (基準値20未満)、PIVKA-II 28mAU/ml (基準値40未満)、CEA 4.2ng/ml (基準値5未満)、CA19-9 18.0U/ml (基準値37未満)、CRP 0.09mg/dl、HCV抗体陽性。

胸腹骨盤部造影CT(左:早期相、右:後期相)を別に示す。なお、肝臓以外に明らかな異常は認めない。



(1)最も疑われるのはどれか

- 1 転移性肝癌
- 2 肝芽腫
- 3 肝細胞癌
- 4 胆管細胞癌
- 5 肝膿瘍

(2)まず行う治療として適当ではないものを3つ選べ

- 1 肝動脈化学塞栓療法
- 2 肝移植
- 3 肝切除
- 4 分子標的治療薬
- 5 ラジオ波焼灼

(答)

(1) 3, (2) 1, 2, 4